

2016年12月13日

公認心理師養成カリキュラムと国家試験に関する日本心理学会の見解

公益社団法人日本心理学会

心理学者の長年の念願であった心理師の国資格化、すなわち公認心理師法は昨年（2015年）9月16日に公布されました。同法は来年2017年9月より施行の見通しです。現在（本年11月以降）、厚生労働省内に置かれた公認心理師制度推進室が担当する公認心理師カリキュラム等検討会、及びそのもとに置かれたワーキングチームで、公認心理師のカリキュラム（経過措置も含む）、実務経験の範囲、現任者の範囲、国家試験等が活発に議論されています（会議の議事録と資料については、厚労省ホームページで逐次公開されています）。

日本心理学会では、公認心理師法成立直後の名古屋大会（2016年9月）での臨時集会において「公認心理師に係るワーキンググループ」を設置することを決め、同年11月以降ワーキンググループでは8回にわたりカリキュラムの検討を中心とした議論を行ってきました。また日本学術会議の心理学教育プログラム検討分科会や健康・医療と心理学分科会とも合同会議を開催し、日心と学術会議のカリキュラム統合案をまとめ、2016年4月には厚労省推進室に提出しました。

その後も日心ワーキンググループと上記学術会議分科会は協議を継続し、カリキュラム案のブラッシュアップを続け、現時点では、厚労省検討会ワーキングチームで、学術会議会員の丹野義彦先生が、学部における心理学教育の重要性（とくに生物-心理-社会統合モデル）を軸に学術会議としての基本的な姿勢を述べられています。11月16日の第2回ワーキングチームにおいて、丹野先生が大学及び大学院カリキュラム案と国家試験に関する基本的見解を発表されました。（[資料参照](#)）

この資料にあるように、日心ワーキンググループと学術会議分科会の考え方の骨子は、次のようにまとめられます。

○学部カリキュラムでは、現代心理学の成果と方法論を体得し、そのうえで公認心理師5領域の知識を習得した準専門家を養成することを目標とする。

○公認心理師学部カリキュラムは、日本学術会議の「心理学参照基準」を基本

理念とし、三団体学部カリキュラム案にもとづくが、すべて必修科目として設定すべきである。学部カリキュラムでは、公認心理師の5領域の科目を含み、世界標準の「生物・心理・社会」の3領域を含むものとする。

○「標準シラバス」を作成し「理解すべきねらい」と「教育に含むべき事項」を策定し教育内容を担保する。試験実施機関は各大学の科目の認定をおこない、教育の質を担保する。

○大学院カリキュラムでは、学部での心理学学習を土台にした上で、高度専門職業者として、主要5領域において即戦力になりうる高い専門知識と技能を有する実践家を養成する。

○国家試験では第1号受験者（学部プラス大学院）と第2号受験者（学部卒業業務経験）を平等で扱うべきである。「技能」の試験は、大学院か業務で獲得する体系にもとづいて出題、また「知識」の試験は、大学（学部）のカリキュラムにもとづいて出題しなければならない。

○学部では「知識」を中心に学び、大学院では「技能」が中心の学びになることを指針とする。

11月14日の第2回ワーキングチームでは、三団体（日本心理学諸学会連合、臨床心理職国家資格推進連絡協議会、医療心理師国家資格制度推進協議会）、臨床心理士養成大学院協議会、臨床心理士資格認定協会、臨床心理学分野専門職大学院協議会からも、それぞれプレゼンテーションがありましたが、学術会議が示す上の理念・基本的見解とは、異なる主張が多々見受けられます。

12月4日に開催された日本心理学会常務理事会では、日本心理学会として、あらためて学術会議の基本的見解を支持し、その方向でカリキュラムが策定され、国家試験が実施されることを強く要望することが確認されました。

12月9日には第3回ワーキングチームが開催され、推進室から「公認心理師カリキュラム等について（検討に当たったたたき台）」（資料参照）が示されましたが、このたたき台では、残念ながら学術会議の提案は大きく削られました。とりわけ、大学（学部）カリキュラムでは、心理学基礎実験実習が科目名として明記されず、卒業論文もリストに載りませんでした。他方、当日の会議では、心理学基礎科目として「臨床心理学」を追加することと、「健康・医療心理学」「福祉心理学」「教育心理学」「司法心理学」「産業心理学」の5科目の括

りを「応用心理学」から「臨床心理学」へ変更することが了承されました。カリキュラムはまだ確定したわけではありませんが、このような方向でカリキュラムが確定すると、我国の学士課程（学部）での心理学教育が、学問（科学）としての心理学から臨床心理学へと大きくシフトすることを意味します。そのような方向は、学術会議の提言とはそぐわないものです。

日本心理学会では、学術会議の「心理学参照基準」にそった学士課程教育のカリキュラムが実現されるように、引続き、各方面への働きかけを行っていく方針ですので、会員の皆様のご理解をいただけますようお願い申し上げます。

※公認心理師カリキュラム等検討会の議事録／議事要旨、資料等は、次の URL に公開されています。

厚生労働省 公認心理師カリキュラム等検討会

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syougai.html?tid=380707>

(資料)

日本学術会議 心理学・教育学委員会 ヒアリング資料

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougai-hokenfukushibu-Kikakuka/0000143258.pdf>

(第2回公認心理師カリキュラム等検討会ワーキングチーム(11/16)資料3)

厚生労働省 公認心理師制度推進室 カリキュラム検討にあたってのたたき台

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougai-hokenfukushibu-Kikakuka/0000145476.pdf>

(第3回公認心理師カリキュラム等検討会ワーキングチーム(12/9)資料1)